

☆脚本の書式例（二〇二五年度入選作『赤羽君が走ったワケ』より）
※『演劇と教育』二〇二五年九十一〇月号に掲載

脚本を書くときの書式として推奨する例です。脚本募集に応募する場合の書式の見本として参考にしてください。

主な注意点

- ① 登場人物を載せる（人物名にはよみがなをつける）
- ② ト書きは一行空けて一段下げて書く。
- ③ 台詞は名前の下を一〇二マス程度空けて、「」は付けずに書く。一人の台詞は改行せずに一つの段落で書く。「演劇と教育」誌では誌面節約のため一つの台詞の二行目からは一マス目から書かれていますが、普通は改行しても一マス目からは書きません。
- ④ 募集要項の「その他の留意事項」も忘れずにご覧ください。

赤羽君が走ったワケ

【登場人物】

青木（演劇部部长 中三）
あおき

赤羽（演劇部新入部員 中二）
あかばね

黒田（元演劇部 高一）
くろだ

金剛（演劇部顧問）
こんごう

緑川（進行役）
みどりかわ

『シーン① 体験入部最終日』

幕が開くと、舞台中央に青木がいる。軽い運動をしている。

ここは、とある中学校の演劇部の練習場所である。上手後方に台本を入れる棚がある。

物語の進行役の緑川が現れ、サスが当たると舞台前方で語り始める。

緑川 皆さんこんにちは。私は進行役の緑川です。これからお見せするのは、とある中学校の演劇部の物語です。あちらにいるのは、三年生に進級したばかりの青木。先輩が卒業し、部員が自分一人だけになってしまつて非常に焦っているこの頃。今日は新入生の体験入部の最終日ですが、さて、どうなるのでしょうか。

緑川が退場すると、舞台全体が明るくなる。

青木 では、これから演劇部の活動を始めます。…礼！（一礼して）よろしくお願ひします！…つて、また私一人か…新入生入ってこないのかな。このままじゃヤバイよ、演劇部、廃部になったらどうしよう…。まあ、遅れてくる可能性もあるし、発声練習でもするか。

青木は客席に向かって大声で早口言葉を言う。

青木 「赤パジャマ青パジャマ黄パジャマ、パパのパジャマはパパパジャマ！」「バナナの謎はまだ謎なのだぞ！」（など何でもいいが、滑舌はあまり良くない）

そこへ中一の赤羽が現れる。

赤羽 演劇部ってここ？

青木 そうだけど…もしかして君、体験入部に来た新入生？

赤羽 まあね。

青木 おー、やったー！ 一年生来たーっ！

赤羽 何やんの？

青木 えっと、じゃあ準備体操しようか。それから発声練習。

赤羽 だるっ。そうじゃなくて、何の台本やるのかってきいてんの。

青木 あ、台本ね、今年の文化祭の台本はまだ決まっていんだけど、去年やったやつならあるから、ちよっと探してみるね。えっと…（と棚をあさる）

赤羽は床に座り、ポケットからスマホを取り出していじり始める。
そこへ元演劇部の高一、黒田が現れる。

黒田 よお、青木！

青木 その声は、黒田先輩っ！

二人はハイタッチをする。

青木・黒田 イエーイ!!

黒田 どうだ、元気にやってるかー？

青木 先輩！ すっかり高校生ですねー、ヒュー！ 学ラン似合ってるー！

黒田 そんなに褒めんなよー、照れるじゃねーか。
(以下省略)